

〔 横浜能楽堂 〕
令和 2 年度業務報告書
〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
●：主催事業。○：共催事業
を示します。

※ 文中の達成指標欄において、
□：定量的指標。■：定性的指標
を示します。

I 施設の概要

施 設 名	横浜能楽堂
所 在 地	横浜市西区紅葉ヶ丘 27-2
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上 2 階地下 2 階建
敷地・延床面積	建築面積 1,770.81㎡ 延床面積 5,695.93㎡
開 館 日	平成 8 年 6 月 28 日

II 指定管理者

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2 番地
代 表 者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで

III 指定管理に係る業務方針

1 基本方針の総括

新型コロナウイルス感染症拡大防止を前提とした施設運営、公演開催を通年で実施しました。多くの貸館がキャンセルや延期、自主事業も 2 公演が中止、その他の公演もガイドラインに基づく客席数制限となり非常に厳しい状況でした。その中で今できることを模索し、無観客動画配信や感染症対策を敷いた公演の実施、オンラインによる施設案内や解説などに取り組みました。

第 3 期指定管理の経営方針である「質の高い事業の実施、古典芸能専門施設としてのブランドの確立」については、延期や客席制限を取り入れながらできる限り公演を提供することで横

浜能楽堂での鑑賞に期待する声に応えました。「子どもを対象とした事業の強化」については、通年で計画通りの事業を実施し、新たに狂言「柿山伏」動画配信による子どもや教員への働きかけを行いました。「新規利用開拓と利用率の向上」ではこの状況下においても第二舞台を中心に新規の利用がありました。「老朽化に対する取り組みと利用者ニーズに応じた対応」では日々の点検や小破修繕に丁寧に取り組み、また利用団体の感染症対策に配慮しました。

2 令和2年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務について】

1 施設管理について

引き続き利用者、来館者、出演者の皆様が安全、安心、快適に利用できるように努めました。経年劣化による不具合や故障も発生していますが、都度、適切な対応を実施しました。また楽屋、研修室に通気性確保のため網戸を新設する等、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から必要な対応も実施しました。

2 施設運営について

4月から5月末まで臨時休館となり、すべての貸館利用を停止しました。2回目となる1月からの緊急事態宣言下では夜間利用の受付を制限しました。感染症拡大防止を最重要事案と捉え、利用者には消毒、マスク着用、換気など基本的な対策への協力を仰ぎました。6月の再開以降も多くの利用が延期やキャンセルとなりましたが、秋以降はかなり持ち直してきています。

3 文化事業について

6月の「横浜狂言堂」を無観客動画配信形式で開催したのを皮切りに、7月からは予定していたすべての公演、ワークショップをその時々ガイドラインを遵守しながら実施しました。過去の公演映像を活用し「横浜能楽堂 Youtube チャンネル」で配信した映像では再生回数 52,000 回を超える番組もあり、実演鑑賞に留まらない今後の展開の可能性を拓きました。また長年懸案となっていた公演アーカイブ（上演記録）の整理にも着手し、「横浜狂言堂」の公演記録を纏めました。多くの公演で「客席 50%以内」でチケット販売したために、制限席数上限に近い公演が続きましたが、全体的な集客数は低調となりました。

4 収支計画及び指定管理料について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館や公演中止などにより利用料金収入、入場料収入は予定を大きく下回りましたが、休館や夜間閉館に伴う光熱水費や委託費の支出減、また横浜市からの補填によりほぼ収支均衡となりました。

IV 業務の取組と達成指標

1 施設管理

(1) 施設及び設備の維持保全及び管理

【目指す成果】

業務の基準に従い、日々の保守管理・維持保全に努めます。

[成果についての振り返り] 業務の基準に従い、日々の保守管理・維持保全を実行しました。		
[取組内容] ①文化財（能舞台）の適切な保護 ②中長期的な視点による総合的な施設（建築物）、建築設備、舞台設備、備品等の保守管理の遂行 ③清掃、廃棄物処理及び環境への配慮等、植栽管理業務等の環境維持管理業務の実施 ④駐車場管理業務の実施	[達成指標] ■日々の手入れと点検を実施し、必要に応じて専門業者による管理・メンテナンスを行います。 ■職員および施設管理委託者による毎日の巡回と目視点検により不具合の早期発見に努めます。 ■施設利用後の速やかな点検の実施 ■台風・大雨等自然災害時の事前準備対策の強化 ■台風・大雨後の巡回点検強化 □建物設備管理に起因する過失事故 0 件 □アンケート 快適評価4.0 以上	[実施内容と達成状況] ■横浜市有形文化財の認定を受けた貴重な文化財である能舞台を有する施設全体について、業務の基準に記されているとおり適切に管理しました。 （主な事例） ・老朽化/消耗の進行した非常照明器具やバッテリーの置換 ・中央監視装置コントローラー(PC)の置換 ■定期的な巡回及び利用後の状態確認を職員が行い、不具合発見時は報告書を作成すると共に迅速にスタッフ内で共有しています。 ■施設利用後、職員点検を行った後に警備員が最終巡回を行い、施錠等安全確認を徹底しました。併せて利用後の施設各所の消毒を実施しました。 ■委託業者とともに情報を収集し、事前対策に当たりました。 ■台風・大雨後は速やかに点検しました。地震発生時も早急に点検確認しました。 □ 0 件 業務の基準に示された内容を遵守し適切な管理を行いました。 □快適評価 4.36 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からアンケートの実施を中止/制限した

	□環境維持管理に起因する過失事故 0 件 □駐車場の保守点検年 2 回以上 □駐車場および車両に起因する過失事故 0 件 □備品（収蔵庫）管理 害虫駆除年 2 回以上 □植栽管理 年 2 回以上	ため、従前より回答数が減少しています。 [主なご意見] ・トイレへの洗浄器設置要望 ・本舞台見所椅子の改善要望（傾斜、振動等） ・公演当日のチケット販売動線の改善要望 ・公演マナーに関する声掛け要望 □ 0 件 業務の基準に示された内容を遵守し適切な管理を行いました。 □9/18、3/26 実施 業務の基準に基づき適切に管理しました。 □ 0 件 車で来館されるお客様がスムーズかつ安全に利用できるよう警備員と協力して対応しました。 □6/22、12/14 実施 貴重な装束や能面等の収蔵品をカビや害虫から守るため、業務の基準に基づき温湿度及び塵芥管理と害虫駆除を行いました。 □6/18、8/4-7、10/13-16、12/25-26、2/2-5 計 5 回実施。 今年度は植栽管理委託業者が変更となりましたが、実施にあたっては、近隣住民と十分な調整のもと行い、周辺環境と調和するたためまいを保つよう管理を行いました。
--	--	--

(2) 小破修繕への取組

[目指す成果] 業務の基準に従い、日常点検を行い問題箇所迅速に対応します。 [成果についての振り返り] 業務の基準に従い、日常点検と問題箇所対応を迅速に実施しました。		
[取組内容] ①日常の管理・毎月の点検における不具合・不調箇所を発見し、早期の小破修繕等の対応 ②利用者の安全に関わる事案への最優先対応 ③不具合箇所等の市への報告による情報共有の実施	[達成指標] ■日常の巡回点検、毎月実施する定期点検の中で不具合・不調箇所の早期に発見に努め、部品交換や小破修繕を行います。 ■故障、不具合については速やかに横浜市と共有します。 ■問題箇所については施設管理チームから助言をもらい対応します。 ■修繕を検討すべき不調箇所はモニタリングを通じて横浜市と情報共有と対応・相談を行います ■利用者の安全に関わる事案については、直ちに横浜市に報告し対応を協議します。	[実施内容と達成状況] ■日常の管理、毎月の点検で、早期発見と適切な修繕実施/対応に努めました。また横浜市施工の大型工事（B1F機械温水発生機交換工事）についても、限られた工期の中で利用者に影響を与えることなく安全に工事が実施できるように調整しました。 ■個別の案件については都度情報を共有するとともに、モニタリング時に修繕一覧を作成し提出しました。 ■都度施設管理チームと情報を共有し技術的なアドバイスや他施設の類似事例に基づくアドバイス等を受けました。また施設管理業者の知見に基づくアドバイスも活用しました。 ■モニタリング時に情報を共有したほか、重要案件については発生後速やかに情報共有しました。 ■直接利用者の安全に関わるような事案は発生しませんでした。

(3) 事故防止体制・緊急時（防犯）の対応・感染症対策等衛生管理

[目指す成果] 業務の基準に従い、適切に対応します。 [成果についての振り返り] 業務の基準に従い、適切に対応しました。		
[取組内容] ①各種事故等対応マニュアルの運用、整備	[達成指標] ■各種マニュアルを整備し備え置きます。	[実施内容と達成状況] ■危機管理マニュアルを作成し館内で共有しました。

②事故防止策、緊急時（防犯）対応 ③感染症対策等衛生管理の方針の策定 ④緊急時の連絡体制、防災に対する取組	■職員、補助職員、委託業者（清掃員）による施設内巡回等による速やかな対応を行います。 ■緊急連絡網を作成し連絡体制を構築します。 ■新型コロナウイルス感染症拡大を予防するために、「感染症対策ガイドライン」を遵守します。貸館利用後の室場や事務室の共用部の消毒も確実に実施します。	■巡回のほか監視カメラ、機器モニタリングにより危険や不審者、要救護者を早期に発見できるよう注力しました。また、利用状況に合わせたこまめな施設管理などにより事故防止と防犯に努めました。 ■館内の緊急連絡網を作成し職員全員が携帯、夜間、休日問わず速やかに報告・連絡・相談できる体制を整えました。本連絡網は市にも提出、情報を共有しました。 ■4月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため主催公演の中止、貸館利用キャンセル受付、開館時間の短縮の対応を行いました。共有物や利用者が手を触れる箇所の消毒を徹底しました。
--	---	---

(4) 防災に対する取組

[目指す成果] 業務の基準に従い、適切に対応します。 [成果についての振り返り] 業務の基準に従い、適切に対応しました。		
[取組内容] ①各危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施 ②消防訓練（年2回実施） ③指定管理者本部からの情報提供 ④外国人来場者への案内 ⑤延命講習の受講 ⑥汚物処理研修 ⑦救急時の医療機関への搬送	[達成指標] □消防訓練（避難誘導訓練を含む） 年2回実施 （外国人来館者・障がい者を想定した内容含む） ■消防訓練をより現実にした状況で実施します。 □消防設備の取扱研修 年2回実施	[実施内容と達成状況] □7/6、1/18 実施 危機管理マニュアルに基づいた訓練を行いました。 ■新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から消防署員の立会は見合わせるとなりました。 □7/6、1/18 実施 消防訓練実施時に合わせ、水消火器による消火器取扱実

	□普通救命講習1を全職員が受講済とします。 □ノロウイルス対応等研修年1回以上 ■救急時は救急医療機関を紹介、搬送の手配をします。また、事務室及びチケットブースで近隣の診療所や救急相談センターの情報等を共有します。	習、消火栓取扱実習、防災放送設備研修を実施しました。 □全職員が受講済 □1/18 実施 ノロウイルス対応研修を実施しました。 ■救急搬送発生の際には職員が病院まで同行しご家族に引継ぐことを基本対応としました。 (救急搬送実績2回)
--	--	--

2 施設運営

(1) 能楽等の公演、稽古、創作その他の活動のための施設の提供

[目指す成果] 第3期指定管理提案における施設利用率及び利用料金収入の達成に取り組めます。 [成果についての振り返り] 2か月間の臨時休館、1月以降の夜間貸出制限をはじめ、キャンセルや延期が続き、施設利用率及び利用料金収入は目標未達となりました。秋以降は研修室を中心に利用が戻りつつあります。利用者にも協力を仰ぎ、感染症対策を敷きました。		
[取組内容] ①適切な施設の提供、運用 ②貸館の利用率が高まる工夫による施設の利用促進 ③新規の利用者を増やすための工夫 ④指定期間における利用料金収入、利用率の考え方、利用率の達成 ⑤貸館、舞台の適切な運営体制の整備 ⑥要望・苦情への対応、職員における共有	[達成指標] ■開館時間：午前9時～午後10時 受付・チケット販売：窓口 午前9時～午後6時 カルチャースタッフ2名以上で対応 貸館受付：午前9時～午後8時 ■利用料金の設定：現行の利用料金体系を継続 教育機関の貸館利用については半額減免制度を継続します。 ■受付方法：横浜市能楽堂条	[実施内容と達成状況] ■利用者から開館時間前後の利用要望はなく、指標どおりに施設を提供しました。 ■横浜市能楽堂条例及び同施行規則に規定される横浜市内の教育機関のほか、市外・県内外の教育機関の利用を促し、適切に運用しました。教育機関の半額減免制度による学校鑑賞会利用1件はキャンセルとなりました。 ■本舞台について、能・狂言

	例施行規則に則り、能狂言とそれ以外の古典芸能で受付開始日を変えて受付します。 ■支払方法：現金または払込で収受します。 ■古典芸能鑑賞会、施設見学会等について学校や旅行代理店にプランを提案します。 □アプローチ件数 15 件、商談件数 3 件 ■利用案内の DM 送付等を実施し貸館の周知を行います。 □利用案内 DM 送付 過去の施設利用者 50 件、近隣住民 2 回/年 友の会会員 700 件 学校等古典芸能関連サークル 10 件 ■初めての朝割、初めての U25 割（25 歳以下）、応援割（ワークショップ修了者）を実施します。 □利用料金収入 16,600 千円	に関する利用受付開始は 24 か月前の第 2 日曜日、それ以外は 12 か月前の第 2 日曜日とし、能・狂言の優先利用を促しました。 ■達成指標のとおり実施しました。 ■達成指標のとおり実施しました。 □アプローチ件数は、ユニークベニュー 5 件、旅行会社 10 件、その他新規施設利用 3 件の計 18 件。商談件数は、イベント運営会社、旅行代理店、広告代理店の計 3 件。 ■利用案内 DM 送付 過去の施設利用者への DM は未実施。友の会会員への DM は 3 回（4 月、8 月、12 月各約 670 通）、近隣住民 2 回/年、高校文化部担当宛 243 件 ■「初めての朝割」4 件/4 回、「応援割」12 件/20 回の利用がありました。利用実績のない「初めての U25 割」については広報のためチラシを県内、市内の高校 243 校に送付しました。4 月と 12～1 月に「初めての朝割キャンペーン」を実施し、1 件の新規利用がありました。 新たに本舞台を 1 時間から稽古で利用できる「いつでも本舞台でお稽古」の運用を開始しました。（10 月利用分より。利用実績なし。） □収入実績 7,783 千円
--	--	--

	□施設目標利用率 本舞台（日）40% 第二舞台 64%、 研修室 1・2 31% 研修室 3・4 49% □開館時の運営体制：1階受付 カルチャースタッフ 2名以上、事務室 職員 2名以上を基本とし、夜間時間帯は利用状況に応じて1～3名 □本舞台利用時の運営体制：舞台技術者（委託）による対応 □本舞台における公演・発表会の開催時の運営体制：カルチャースタッフ 1名～4名を増員 ■事務室の職員全員が貸館に対応できるよう、マニュアルを備え置きます。 ■貸館の手引きを備え置きし、利用者に施設利用に関する情報をわかりやすく伝えます。 ■スタッフのノウハウを活用した『利用者サポート』（公演事前準備支援、公演等制作支援、稽古場探し支援）を実施します。 ■能楽以外のご利用に際し、能舞台に固有の利用についてのサポート、当日支援を貸館チーム中心に行います。	□施設利用率実績 ・本舞台（日）31% ・第二舞台 43% ・研修室 1・2 26% ・研修室 3・4 33% □1階受付は補助職員を常時2名、事務室職員は2名以上を基本にシフトを組み、貸館に対応しました。 □本舞台利用時は舞台技術者1名を配置しました。 □達成指標どおり実施しました。本舞台で公演、発表会を開催する際は、緊急時の避難誘導など安全を確保するため補助職員を増員しました。 ■マニュアルを全職員で共有しました。クラウド型予約システム導入に伴い、操作研修を実施し、マニュアルを整備中です。 ■達成指標とおり実施しました。利用者との打合せにきめ細かく対応し、必要な情報は館内で共有しました。 ■8月能楽公演、12月能楽/謡仕舞発表会、2月能楽/太鼓発表会に新型コロナウイルス対応についてノウハウ提供をしました。 ■団体見学2件、旅行会社による修学旅行見学問合せ8件、団体鑑賞相談2件。第二舞台での邦楽箏曲（令和3年度10月、長唄・三味線教室（3月）、歌舞伎音楽発表会（1～3月）利用についての相談に
--	---	--

	■毎月発行の催し物案内広報物「橋がかり」に本舞台・第二舞台の公演・発表会等の情報を掲載し、貸館催事の広報に協力します。 ■公演ごとに実施するアンケートを分析し、お客様の要望・苦情を把握し対応します。 ■アンケート回収率の向上のための工夫を行います。 □アンケート回収率 目標 15% ■必要に応じ財団事務局、横浜市と情報共有します。 ■クレームについてレポートを作成し職員間で共有します。	対応しました。 ■毎月「橋がかり」を発行(毎月 8,000 部)、本舞台・第二舞台の公演・発表会等の貸館情報を掲載しました。 ■アンケートは全職員が目を通し、要望・苦情について可能な範囲で迅速に対応しました。 〔主な事例〕 ・他の観客の鑑賞マナーに関するご意見、マスクの着用方法に関するご意見など。 ■コロナ対策として終演時の混乱を避けるため、WEB やファックスでのアンケート回収を取り入れました。 □アンケート回収率：12.8% ■横浜市とはモニタリングで情報共有しました。 ■アンケートや直接いただいたご意見を職員間で共有しました。
--	--	--

(2) 利用促進及びサービスの向上

[目指す成果] 新貸出プランなどプロモーションへの取り組みを継続し、かつお客様の満足度を高め、利用を促進します。 [成果についての振り返り] 感染症の動向を見つつ、次年度以降の利用促進にもつながるよう計画に沿ってプロモーションや広報を行いました。複数日に渡る撮影も 2 件利用がありました。		
[取組内容] ①各貸出施設の利用促進に対する取組み及びプロモーション ②お客様からの意見箱の設置及び対応によるサービスの向上 ③物販サービスの実施 ④来館者及び外国人観光客に向	[達成指標] ■各室について稽古利用ができることを SNS やちらしで周知します。 □利用案内 DM 送付 (再掲) 過去の施設利用者 50 件、近隣住民 2 回/年	[実施内容と達成状況] ■Twitter と Facebook で稽古の会の発表会について広報しました。 □過去施設利用者への DM 送付は未実施。近隣マンションへのチラシを配布は 2 回実

けた Wi-Fi 用アクセスポイントの設置	友の会会員 700 件 学校等古典芸能関連サークル 10 件 ■ツイッターや WEB ページを活用し貸館情報、利用紹介や案内を告知します。 ■本舞台の 1 時間単位での貸出に関する広報の実施 ■WEB ページでの施設空き状況の情報提供の検討 ■撮影利用、アフターコンベンション等の利用希望への積極的な対応。対応マニュアルの再検討。 ■公演利用者への付加サービスの提供のプラン作成 ■初めての朝割、初めての U25 割（25 歳以下）、応援割（ワークショップ修了者）実施（再掲） ■2 階旧レストランスペースでの懇親会や昼食利用等の提案 ■意見箱の設置 ロビー 1 カ所、楽屋 1 カ所 ■本舞台利用時にショップ	施。友の会会員へは 3 回実施しました。U25 割チラシを県内、市内の高校 243 校に送付しました。 ■達成指標のとおり実施しました。 ■7 月にチラシ、「橋がかり」、HP で広報を実施しました。 ■クラウド型施設予約システムを導入し、WEB ページでの施設空き状況方法提供について検討しています。 ■達成指標のとおり実施しました。また、撮影利用やユニークベニュー料金計算データファイルを作成しました。 ■通常の付加サービスに加え、新型コロナウイルス対策への対応ノウハウ提供ニーズが多かったため、主催公演時の実例を示しながら運営アドバイスをを行いました。 ■「初めての朝割」4 件/4 回、「応援割」12 件/20 回の利用がありました。利用実績のない「初めての U25 割」については広報のため、チラシを県内、市内の高校約 243 校に送付しました。4 月と 12～1 月に「初めての朝割キャンペーン」を実施し、1 件の新規利用がありました。 ■旧レストランスペースでの懇親会や昼食利用はありませんでした。 ■計画通り実施し、ご意見を収集しました。 ■新型コロナウイルス感染
------------------------------	---	---

	の営業を行います。 ■横浜市内業者と協力し新しいオリジナル商品開発を検討します。 ■オリジナル生落雁「鏡板」について、季節や催しものに応じた販売強化を行います。 □鏡板 特別バージョン販売 年2回以上 ■新てぬぐい「舞」と関連グッズの販売を強化します。 ■物販・チケット代金の支払にクレジットカード・電子マネーの取扱いを実施します。 ■フリーWiFi の提供を行います。 ロビー・展示廊エリア 1台 常時提供 見所エリア 必要時に提供	拡大防止の観点から、年度後半の一部見学会等を除きショップの営業を休止しました。 ■オリジナル生地を使用した「フラットポーチ（マスク入れ）」を商品に加えました。 ■落雁「鏡板」についてショップ営業休止に伴い販売を停止しました。 □販売中止により特別バージョンも未実施となりました。 ■ショップ営業休止に伴い販売を停止しました。 ■カード決済 通年提供しました。 ■ロビー・展示廊エリアは通年、見所エリアは必要時（貝開設字幕提供時等）に提供しました。
--	--	--

(3) 組織的な施設運営の取組、職員の確保・職能、配置及び育成

[目指す成果] 専門館ならではの事業の実施、施設の堅実な運営に向けて人材を配置・育成します [成果についての振り返り] 支配人の元、2人のチームリーダーがそれぞれ管理運営、来館促進を統括しました。事業企画を担う専門人材であるプロデューサー、事業担当は芸術監督の指導及び財団の専門人材研修への参加などを通じて企画制作力を磨きました。		
[取組内容] ①明確な責任体制の構築、勤務シフトの設定 ②適切な休館日の設定 ③専門性人材の安定的確保と能力向上に対する方策の実施 ④求める役割を果たす責任者・職員の配置 ⑤各研修の実施	[達成指標] ■管理運営チームリーダーが庶務労務、施設管理、経理を統括します。 ■来館促進等チームリーダーが貸館と施設広報を担い、利用率達成を目指します。	[実施内容と達成状況] ■管理運営チームリーダーが庶務労務、施設管理、経理を統括しました。 ■来館促進及び能楽堂のプレゼンス向上を目的に来館等促進チームリーダーを配置し、各種割引実施、パーティー利用や撮影料金の適用及び広報等、貸館・来館促進事業を実

	■プロデューサーとなる企画制作担当職員は、先輩後輩のペア制をとることでOJTを行います。 支配人 1名（常勤） 芸術監督 1名（常勤） 管理運営チームリーダー 1名（業務：管理運営） 来館促進等チームリーダー 1名（業務：来館促進、貸館営業） 職員 6名 事業担当 4名（うち1人経理兼務）、事業補助1、広報営業1 補助職員 16名（事務室補助職員1、カルチャースタッフ15人） □開館日数：335日 □施設点検のための休館日：年間30日（月2日、年末年始） ■勤務体制 【基本】芸術監督を除きローテーションでの勤務体制 主催事業や貸館内容に応じて勤務体制を調整 基本となる勤務時間 ・芸術監督 9:30～18:15 ・支配人以下の職員 - A勤務 8:45～17:30／ - B勤務 13:15～22:00 ・補助職員（B1F事務所） - A勤務 8:45～17:15／ - B勤務 13:30～22:00 ・カルチャースタッフ（1F受付）	施しました。 ■公演ごとに1事業2名体制を明確にし、OJTを実施しました。事業担当3名は財団の専門人材育成のための研修に通年参加しました。 支配人 1名（常勤） 芸術監督 1名（常勤） 管理運営チームリーダー 1名（業務：管理運営） 来館促進等チームリーダー 1名（業務：来館促進、貸館営業） 職員 6名 事業担当 4名（うち1人経理兼務）、事業補助1、広報営業1 補助職員 16名（事務室補助職員1、カルチャースタッフ15人） □開館日数：335日（うち52日間は緊急事態宣言による臨時休館） □施設点検のための休館日：年間30日（月2日、年末年始6日間） ■早番、遅番の2交代制を基本として午前9時から午後10時までの開館時間を適正な出勤人数で運営しました。 4月～5月の新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言中は、感染防止の観点から出勤する職員/カルチャースタッフの人数を抑制しました。
--	--	---

	A 勤務 8:50～13:50／ B 勤務 13:15～18:15 □バリアフリー研修（主催） 1 回 ■公文協・劇音協ほか外部セミナーの受講を推奨し、専門知識の習得に努めます。 ■財団主催研修・横浜市研修へ職員を参加させ資質向上およびスキルアップをはかります。 ■他都市の公演視察や施設見学により職員の企画・運営力向上をはかります。 ■調査研究のための出張	□バリアフリー研修（主催） 3/11 実施。聴覚障がい及び視覚障がいのあるお客様の誘導上のポイントを実地研修しました。 ■コロナ禍により各種研修中止となりましたが、10/28 県公文協主催「感染症対策」セミナーを受講しました。 ■財団専門人材研修、コーチングスキル研修等に参加しました（オンラインによる開催）。 ■コロナ禍のため出張、視察を抑制しつつ事業制作上必要な出張、また他施設の感染拡大防止策実施状況視察等、必要性に応じて実施しました。 □企画公演「歌枕の旅」の舞台となる土地を担当職員が実際に訪れプログラムノートの取材を行いました。海外出張については該当する企画が無いため実施しませんでした。
--	---	---

(4) 本市の重要施策を踏まえた取組

[目指す成果] 横浜市の重要施策を踏まえて、真摯に取り組みます。 [成果についての振り返り] 外部研修等の機会は限られましたが、個人情報保護の職場内研修を中心に各取組内容を推進しました。		
[取組内容] ①個人情報保護 ②コンプライアンスの遵守 ③適正な情報公開 ④人権尊重 ⑤環境への配慮 ⑥市内中小企業優先発注	[達成指標] ■個人情報取扱いマニュアルに則り適切に対応します。 □個人情報取扱研修 年 1 回 ■コンプライアンス委員会での情報共有を行います。	[実施内容と達成状況] ■個人情報取扱いマニュアルを全員で共有しました。 □新採用カルチャースタッフを対象に実施しました。 ■財団コンプライアンス委員会（月次）資料を全職員で

⑦男女共同参画の推進 ⑧その他	■印刷物を中心にダブルチェックの徹底 □全職員対象コンプライアンス研修 年1回 □横浜市主催人権研修に職員を参加させます。 ■省エネルギー・節電・ごみ減量に取り組めます。 □中小企業への優先発注全発注の9割以上 ■働き方改革の趣旨に則り、超勤の抑制、有給休暇の適切な取得に努めます	共有しました。 ■印刷物は支配人まで複数名で校正しました。 □新採用カルチャースタッフを対象に実施しました。 横浜市人権啓発講演会「インターネットと人権」(11/21)を1名受講しました。 ■引き続き省エネルギーに取り組むと共に公演チラシ類の印刷数の見直しに取り組みました。 □達成指標どおり実施しました。市内中小企業への発注を原則としました。 ■休日出勤、超過勤務の事前申請を徹底しました。 平均超勤時間 7.1 時間/月
--------------------	--	--

3 文化事業

(1) 能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成、愛好者の拡大

[目指す成果] 敷居が高いと思われがちな能楽等古典芸能に関する興味や関心を広げ、理解を深めます。 [成果についての振り返り] 一部の公演の中止や延期、ガイドラインに基づく販売座席数の制限等はありませんでしたが、ほぼすべての普及公演、ワークショップを予定通り開催しました。通常に比べ少ない観客となりましたが、久しぶりの劇場での鑑賞を喜ぶ声をいただき、このような困難な時期にこそ文化芸術の果たす役割の重要性を実感することができました。また無観客収録映像配信や過去の公演映像の「横浜能楽堂 Youtube チャンネル」での配信など新しい取り組みも行いました。		
[取組内容] ①能楽等の古典芸能の継承、振興や発展に向けた公演、講座・ワークショップの実施 ②「クリエイティブ・インクルージョン」の趣旨を踏まえすべての人が参加できるとともに、ユニバーサル対応に向けた様々なサポートを整えた公演や体験講座等の実施	[達成指標] □普及公演「横浜狂言堂」全12回 毎月第二日曜日開催、解説付きで低廉な料金設定により初心者だけでなく、鑑賞回数を増やしたい層にも魅力ある公演です。券売率 90% 入場者数 437 人/回 (12 回 5,244 人)	[実施内容と達成状況] □毎月第2日曜日に実施 普及公演「横浜狂言堂」(全10回) ※4/12, 5/10 は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止、6/14 は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客収録映像配信、販売座席数はガイドライン等に基づき多くの公演で 50%

③「クリエイティブ・チルドレン」の考え方に基づく、次代を担う子どもたちや教育関係者を対象とした施設内での能楽等の学習・体験機会、古典芸能に触れるきっかけの提供 ④子どもたちの感性、創造性を育み、意欲を発展させることのできるプログラムや継続性のある事業の実施 ⑤市内の子どもたちに対して文化芸術に触れる機会を提供するため、「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」にコーディネーターとして参画し学校プログラムを実施 ⑥能楽等の次世代の育成に向けて、若手の出演者等の積極的な登用 ⑦古典芸能の魅力を伝え、興味や関心に応じて体験することのできるワークショップや講座等の開催 ⑧愛好者の定着に向けた古典芸能に触れる際や活動にあたってのサポート・相談体制を整え、継続的に活動できる機会の提供		以下で設定しました。 ・平均券売率 96.9%、入場者数 229 人/回 (9 回 2,064 人) 7/12: 券売率 100%、入場者数 145 人、8/9: 券売率 91.1%、入場者数 179 人、9/13: 券売率 100%、入場者数 226 人、10/11: 券売率 100%、入場者数 228 人、11/8: 券売率 100%、入場者数 280 人、12/12: 券売率 83.8%、入場者数 351 人、1/10: 券売率 100%、入場者数 207 人、2/14: 券売率 97.9%、入場者数 211 人、3/14: 券売率 100%、入場者数 237 人 若手からベテランまで能楽界を代表する演者が出演し、毎月第二日曜日に開催。解説付きで手ごろな価格設定により、初心者からリピーターまで、多くの方に狂言に親しんでいただける機会となりました。 [アンケート] コロナ禍の中ようやく伺うことができ嬉しく思います (7 月)、楽しい時間を過ごすことができた。解説で、今は使わない言葉について教えてもらえたのがよかった (8 月)、笑いでコロナを吹き飛ばしたような思いがいたしました (11 月)、皆様の芸がいきいきとして演目の軽快さもあって、久々の鑑賞が大変嬉しいものになりました (12 月)、初めての狂言でしたが、とても楽しむ事が出来きて、あつと言う間の時間でした (1 月)。
--	--	--

	□3/20 普及公演「バリアフリー能」 1 回 「すべての人に能楽を」というコンセプトで、障がいのある方へのさまざまなサポートを用意し実施します。視覚障がい者・聴覚障がい者・知的障がい者向け事前見学会 各 1 回、公演終了後の意見交換会 1 回、券売率 50% 入場者数 244 人・介助者 1 名無料	□3/20 開催 販売座席数は障がいのあるお客様でも安心してご来場いただけるように 50%以下で設定しました。 【介助者含まず】 ・券売率 73.4%、入場者数 163 人 【介助者含む】 ・券売率 97.8%、入場者数 230 人 点字による広報物、舞台触図、副音声、手話通訳、詞章の用意、触れる能面・能舞台展示等各種サポートに加え、字幕配信と副音声を実施しました。 ・2/27、28 バリアフリー施設見学会 3 回 (参加者数：2/27 午後 7 人、2/28 午前 4 人、午後 10 人) ・ホームページに「おうちで楽しむ能楽堂」を開設。 「バーチャル能楽堂」「みる・きく施設見学会」、当日の公演動画を字幕・副音声をつけた動画「バリアフリー能」を配信しました。 ・公演後の意見交換会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。 [アンケート] 事前の見学会が良かった。そして、また当日説明を聞いて忘れていたことを思い出したり、説明した内容も異なっていたので、何回聞いてもよかった。
--	---	---

	□8 月 こども狂言ワークショップ 入門編 3 日間山本東次郎家を講師に迎えて夏休みに小・中学生の子ども対象のワークショップを開催します。参加者数 20 人以上	とができないと思っていました。こうした講座があるのはとてもうれしく勉強になりました。 □8 月 11-13 日実施、参加者数 8/11 17 人、8/12 19 人、8/13 18 人 〈アンケート〉 こども：仕舞と柿山伏の山伏をやり、山伏の鳥の声のまねや、さるの声のまねが楽しかったです。おじぎの作法がふつうのおじぎと違っていておもしろかったです。 大人：普段ふれる機会のない古典芸能をレクチャーしていただけて、大変貴重な体験をさせていただきました。理解が難しくとも、子どもたちが積極的に参加したくなるのがよく伝わりました。多くのこども向けのイベントが中止されているコロナ禍の中、感染予防策をとりながら実施して下さったこと、本当に感謝します。
	□1-3 月こども狂言ワークショップ 卒業編 10 回 入門編の参加者から希望者を募り、舞台での発表を目標としたワークショップを開催します。参加者数 5 人 □3 月下旬横浜こども狂言会 1 回 こども狂言ワークショップでの稽古の成果を、OB・OG 組織である「いろはの会」メンバーと一緒に本舞台で披露します。こども狂言ワークショップ卒業編からの参加者	□稽古 10 回実施 (1/12、20、29、2/5、18、3/4、11、16、23、25) 参加者数 8 人 □3/28 実施 参加者 25 人 来場者 88 人 卒業編の 8 人と「いろはの会」17 人が本舞台で成果を披露しました。

	5人、いろはの会の参加者含め15人 入場者数100人 ■「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」からの要請に応じて学校プログラム、狂言・古典芸能を軸にコーディネートを行います（昨年度実績5校）。 ■通常の公演企画を通じて実力ある若手の演じ手を起用していきます。 □4-7月講座「初めての能楽教室」 お稽古の機会が得にくい能楽教室を、主に大人の初心者を対象に開催します。開催時期を季節の良い4月開始とし、夜のお稽古に参加しやすくします。謡・仕舞20人、小鼓12人、大鼓12人 合計44人 ■横浜能楽堂主催ワークショップの修了者が継続的な稽古を支援するため、施設利用料の減免制度「応援割」を実施します。	■5校実施 11/18 今宿小、11/27 駒林小、12/1 青葉台小、12/2 下野庭小、12/16 東小(以上、狂言) ■12/12 普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」では、金剛流の金剛龍謹をシテに起用しました。その他公演でも若手の演じ手を起用しました。 □12-2月「謡 仕舞」「小鼓」「大鼓」各10回の稽古を実施 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、日程を変更して実施しました。 謡・仕舞13人、小鼓12人、大鼓12人の合計37人が参加しました。 2/13に午前/午後の2部制で三教室合同発表会を開催しました。 ■ワークショップ参加者に応援割のチラシ配布を行い、12件の利用がありました。
--	--	--

(2) 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展

[目指す成果] 芸術性と学術性を基盤とした能楽ファンの期待に応える公演や、初心者にも配慮した公演等により、能楽の振興と普及、新たな鑑賞者の創造に取り組みます。 [成果についての振り返り] 企画公演「馬場あき子と行く 歌枕の旅」シリーズ、特別公演、特別普及公演ほかガイドラインを遵守し、出演者、観客の安全安心に配慮して開催しました。刀剣や鬼がブームとなっており、そういった興味からの初来館者もあり、新たな観客としてお迎えすることができました。		
[取組内容] ①本舞台・第二舞台を活用した公	[達成指標] □施設見学会付の和のワー	[実施内容と達成状況] □施設見学会付の和のワー

演等の開催 ②横浜能楽堂ならではの独創的で発信性の高い公演の実施 ③能楽等の鑑賞者を広げ、愛好者の定着を図るため、能及び狂言等の基本知識や曲の見どころ・背景などを分かりやすく伝える等の創意工夫を凝らした公演の開催 ④文化専門施設として蓄積した高度かつ専門的なノウハウを発揮し、横浜や横浜能楽堂ならではの発信性ある魅力的な公演・事業等の実施	クシヨップを、第二舞台を会場に開催します。ワークショッップ2講座4回以上、申込率80%、参加人数16人/回 □10-3月 企画公演「馬場あき子と行く 歌枕の旅」 歌人の馬場あき子を案内人として、京都から陸奥まで続く東山道沿いの歌枕について講演を行い、その地を舞台とした能を5回シリーズで上演します。 券売率75% 入場者数364人/回 (5回1,820人) □6/27、7/5 特別普及公演「家×家 交流狂言」2回 横浜狂言堂開催150回を記念	クシヨップを開催しました。 6講座13回。申込率67%、参加人数16人/回 □10-2月実施 企画公演「馬場あき子と行く 歌枕の旅」 販売座席数はガイドライン等に基づき多くの公演で50%以下で設定しました。 券売率98.5%、入場者数232人/回 (5回1,164人) 10/10 第1回：券売率100%、入場者数226人、11/22 第2回：券売率100%、入場者数280人、12/19 第3回：券売率100%、入場者数285人、1/23 第4回：券売率92.5%、入場者数165人、2/20 第5回：券売率100%、入場者数207人 東山道沿いの歌枕の地を舞台とした能を歌人で文化功労者の馬場あき子の講演とともに5回シリーズで上演しました。 人間国宝の野村四郎や大槻文藏をはじめ、第一線で活躍する能楽師が出演したことや、馬場あき子による講演が注目を集め、チケット購入者の約半数がセット券を購入しました。 <アンケート> 馬場先生のお話が大変面白く、能をより良く理解できました。和歌と能のテーマは勉強になりました。 □1/30、2/6 実施 特別普及公演「家×家 交流狂言」 販売座席数はガイドライン
---	--	---

	し、異なる家の演者が競演。通常は観られない組み合わせによる狂言を上演します。券売率80%／入場者数388人（2回776人）	等に基づき50%以下で設定しました。公演日も延期しました。 券売率100%、入場者数259人/回（2回518人） 1/30第1日：券売率100%、入場者数252人、2/6第2日：券売率100%、入場者数266人 横浜狂言堂開催150回の記念として、2流7家の狂言師が出演し、異なる家の演者が共演する特別なプログラムを上演しました。 公演当日は横浜狂言堂150回のアーカイブを掲載した豪華パンフレットを用意したほか、特別展を同時開催し、これまでの舞台写真をパネル展示で紹介しました。 <アンケート> 流儀や家をこえた共演がとても良かったです。他家交流はこうした特別な時の楽しみであり最高でした。
	□12/12 普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」1回 能楽初心者が退屈せずに楽しめる曲を選び、解説付きで開催します。 券売率80%／入場者数388人	□12/12 実施 普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」 販売座席数はガイドライン等に基づき販売座席数を減らして設定しました。 券売率94.2%、入場者数390人 能の人気曲「小鍛冶」と、狂言「夷毘沙門」を、横浜能楽堂芸術監督による解説つきで上演しました。能の一般的なイメージを覆す「眠くならない」というキャッチフレーズにより、能楽初心者から愛

		好家まで幅広い関心を集め、能楽の魅力を広い層に伝える機会となりました。 〔アンケート〕 公演前に解説がありましたので、大変参考になり演技に集中できました。能の方、素人が見ても明神のうごきがすばらしく、楽しめました。日本の伝統芸を味わうことができてとても良い経験になりました。
	□10/25 特別公演 1 回 狂言の世界で「猿に始まり狐に終わる」といわれ、幼年の役者が舞台人生の最初期に演じる「靱猿」をはじめ、狂言 3 曲を山本東次郎家一門の出演により上演します。 券売率 75% 入場者数 364 人	□10/25 実施 特別公演 販売座席数はガイドライン等に基づき 50%以下で設定しました。 券売率 100% 入場者数 220 人 人間国宝の山本東次郎をはじめ、山本家総出演で狂言「靱猿」ほか 3 曲を上演しました。山本則光が初めて子猿を演じることなどが話題となり、チケットは早々に完売しました。 〈アンケート〉 子猿がとても愛らしかったです。東次郎師も、山本家の系譜が続いてゆくことに、内心、嬉しかったとおもわれます。休演されている公演が多い当今、見る事が出来て本当によかった。

(3) 能楽堂自体の魅力の発信

〔目指す成果〕

令和 1 年度の実績に基づき、ユニークベニューや MICE 利用の対応充実を図り、和の文化施設として今までにない能楽堂の魅力を発信し認知度の向上をはかります。

〔成果についての振り返り〕

オリンピックパラリンピックが延期され、渡航も制限されたため国内および市内在住の外国人へ

の広報に切り替えました。ワークショップは新メニューも取り入れ開催しました。		
[取り組み内容] ①貸館営業、広報営業担当の人員配置 ②能舞台の文化的価値や日本の伝統文化の発信、プログラムやユニークベニュー等の企画、多言語対応を含む受入を行うことによる、横浜や横浜能楽堂の魅力や認知度の向上 ③観光・宿泊プラン、国際会議等、MICE と連携し、アフターコンベンション等への施設提供	[達成指標] □MICE 関連展示会等視察 1 回以上 ■提案可能な日本文化体験プログラムの再検討 ■提案可能な公演鑑賞パッケージの再検討 □公演または文化体験プログラムのリリース 1 本以上 □施設見学会付の和のワークショップを、第二舞台を会場に開催します。 ワークショップ 2 講座 4 回以上 申込率 80%、参加人数 16 人／回（再掲） ■英語接客が可能なスタッフが「ENGLISH OK！」バッチ着用 ■その他言語の対応可能なスタッフが「◎◎ OK！」バッチ着用 ■能・狂言の英文解説をすべての演目で用意します ■インターネットチケットサイトの英語版を提供	[実施内容と達成状況] □8/24 マイクロツアーリズム講座（オンライン受講） ■和の物づくり体験や施設見学について、オンライン配信も含め検討しました。 ■出演者が少なく実施できる仕舞鑑賞プログラムをYCVB に提案し、3/7 三溪園で実施しました。 □6 本 能楽師が案内する見学と能楽ワークショップ（狂言方、太鼓方 各 1 講座）、日本画・ミニ門松(各 1 講座)、おとな狂言 WS、芸術監督による入門講座を企業に提案しましたが、対面でのイベントは行わないとの回答でした。 □施設見学会付の和のワークショップを開催しました。 6 講座 13 回。申込率 67%、参加人数 16 人/回 ■年間を通じてバッチを着用し接客しました。 ■英語・ポルトガル語のバッチを着用しました。 ■すべての演目で英文解説を用意しました。 ■英語版インターネットチケットサイトでチケットを販売しました。

(4) 能楽等に関する地域等との連携事業

[目指す成果] 地域との連携を密にし、能楽堂の地域文化資源としての魅力を PR します。
--

[成果についての振り返り] 地域との深いつながりで開催してきた「横浜能」「かもんやま能」は中止となりました。 月例見学会やオープンデーなどは開催日の変更、人数制限、事前予約制導入などを敷いてほぼ計画通り実施しました。本舞台（2階見所からの見学）、展示廊の自由見学は通年で休止としたため、日常的に施設を開く取り組みは実施できませんでした。		
[取組内容] ①地域の文化拠点としての役割や期待を踏まえた地域、地元企業等との連携、能楽等の振興に資する活動の実施 ②能楽師を中心とした演者、能楽等の団体、愛好者の団体等との幅広いネットワークの形成 ③生徒学生の職場訪問・職業体験やインターンシップ等の受入、地域と連携した愛好者や人材の育成支援 ④近隣小学校への能、狂言の学習サポート ⑤地域住民への公演告知等による能楽堂や古典芸能に触れる機会の提供 ⑥施設見学会の開催 ⑦地域の実演家・企業・団体等と連携した能の公演の開催 ⑧近隣団体との協働事業への参加、近隣施設との協力・連携	[達成指標] □6/6 第68回横浜能 1回 横浜能楽連盟と共催し、横浜ゆかりの能楽師による能「巴」を上演します。 券売率85% 入場者数412人 ■中・高校生の職場体験受入 □小・中・高校の見学・学習サポート 3校 □先生のための見学会の案内 1回 ■児童・生徒向け見学パンフレットの用意 ■11/29「第37回横浜かもんやま能」1回 ふるさと西区推進委員会、西区役所と共催し、事業運営・広報協力を行います □施設見学会 月1回開催 年間12回以上実施 うち3回をスペシャル企画として、地域のにぎわいに貢献します。また、「東京2020オリンピック・パラリンピック」開催期間に合わせ、多言語対応の施設見学会を行います。 □「伝統文化一日体験オープンデー」開催 1回/年	[実施内容と達成状況] □令和3年度に延期（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため） ■中・高校生の職場体験受入0件 □小・中・高の見学2校5回 □8/16 特別講座「先生のための狂言講座」終了後に先生向けの施設見学会を実施しました（1回）。 ■子ども向けの見学パンフレットを改訂し、配布しました。 ■中止（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため） ■施設見学会4月～7月は中止。通常の見学会6回（参加者合計49人）、特別見学会8月（2回合計36人）、3月（2回合計44人）、多言語対応見学会7/31「みんなで楽しむ能楽堂」（仕舞鑑賞、舞台裏見学、小鼓体験 合計参加者数142人） □12/6 伝統文化1日オープンデー

	能楽体験、和の工作等を館内各所で実施し、能楽堂を開放します。近隣施設との連携や広報の拡充により、初めての来場者増加を目指します。 □近隣住民へのちらし配布 2回/年（利用案内含む） ■WEB ページ、ツイッターの多言語化 □みなとみらい 21「さくらフェスタ 2020」への参加 □「野毛まちなかキャンパス」実行委員会との協働 ■MMcc（みなとみらいコミュニティクラブ）との協働 □西区町歩き企画への協賛・共催 1回以上 ■紅葉ヶ丘エリアの 5 館連携について、館長会・連絡会に参加し、広報等で連携します。	仕舞鑑賞(2 回計 120 人)、舞台裏見学（4 回計 67 人）、小鼓体験（4 回計 21 人）、太鼓体験(6 回計 25 人)、おりがみ(5 回計 54 人)、一閑張り（4 回計 18 人）。来館者数 305 人 □近隣住民へのちらし配布 2回/年（利用案内含む）実施しました。 ■WEB は日英表記としました。ツイッターは周辺情報を日英で 4 月に集中して連日配信する予定でしたが、休館に伴い、未実施です。 □みなとみらい 21「さくらフェスタ 2020」中止 □「野毛まちなかキャンパス」中止 ■MMcc 会員向けイベントとして、8 月みんなで楽しむ能・狂言(参加者 11 人)、11 月特別見学会 2 回(参加者 22 人)を実施しました。 □12/6 街歩きチラシ配布広報協力を実施しました。 ■紅葉ヶ丘 5 館連携の担当者ミーティングに 15 回出席、SNS (FB、Twitter) での発信を開始。10/18 東横線跡地遊歩道施設写真出展、11/25 西区元気プロジェクト出展、12/6 オープンデー・12/20 門松 WS で青少年センターによる講師派遣、1/16 日本画 WS 市民ギャラリーによる講師派遣&運営協力。
--	--	--

(5) 情報提供及び渉外、広報・プロモーション活動

[目指す成果]

情報発信、提供を積極的に行い、横浜能楽堂や古典芸能の認知度を高めます。

[成果についての振り返り]

広報活動は予定通り実施しました。長年必要性が述べられていた公演アーカイブは「横浜狂言堂」全公演分をホームページで公開しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
①施設の紹介 ②公演、事業の紹介 ③横浜能楽堂友の会「かもん会」の運営 ④業務計画書等の公開 ⑤マスコミ等を中心とした幅広いプロモーションの実施 ⑥能楽関連の情報、資料の開示 ⑦公演・講座記録として開館以来の公演等の記録を整理し、「横浜能楽堂アーカイブ」構築の検討	☐WEB ページアクセス数 トップページ：12,000／月 ページビュー：100,000／月 ☐ツイッターフォロワー数：2,400 人 ☐年間スケジュール：8,000 部 ☐2 か月分行事予定「橋がかり」：毎月 10,000 部 ☐横浜能楽堂友の会「かもん会」会員数：目標 700 人 ☐広報資料送付：新聞・雑誌・テレビ等のマスコミ約 100 社 ☐新聞、雑誌の掲載：年間 24 本 うち「家×家 交流狂言」「馬場あき子と行く歌枕の旅」「特別公演」の新聞掲載各 3 回以上 ☐動画による広報実施 2 回以上 ■電話やメールでの問い合わせに対して迅速に回答します。（日本語、英語） ☐「横浜能楽堂アーカイブ」について、前年度に作成したリストに基づき着手し、横浜狂言堂分について完成させます。	トップページ：9,586／月 ページビュー：38,987／月 ☐ツイッターフォロワー数：2,672 人 ☐年間スケジュール：10,000 部発行 ☐2 か月分行事予定「橋がかり」：毎月 8,000 部発行 ☐会員数：668 人（3 月末現在） ☐広報資料送付：計画通り 100 社に送付しました。 ☐新聞、雑誌掲載：年間 35 本、インタビュー記事など。 「家×家 交流狂言」新聞掲載 0 回、「馬場あき子と行く歌枕の旅」新聞掲載 3 回、「特別公演」新聞掲載 0 回 ☐動画による広報を 4 回実施しました。 ■WEB ページお問い合わせフォームにより質問やご意見を受け付けています。全職員が確認できるようになっており、担当者から迅速に回答しています。英語での問い合わせ（見学会への参加、施設利用など）にも適切に回答しています。 ☐公演アーカイブを公開。「横浜狂言堂」を完成し、2 月に WEB 公開しました。

(6) 館内展示及び収蔵品の管理の実施

[目指す成果] 業務の基準に従い、適切に実施します。 [成果についての振り返り] 収蔵品の管理は業務の基準に従い、適切に実施しました。 特別展「歌枕の旅」は、作品収集や調査研究が移動や接触を伴うことから、別企画（横浜狂言堂 150 回記念写真展）に変更し、開催しました。		
[取組内容] ①常設展の開催 ②特別展の開催 ③収蔵品の管理 ④展示の和文・英文表記の充実	[達成指標] □常設展開催 年 2 回以上、観覧者数 4,500 人 □特別展「歌枕の旅（仮）」開催 1 回、観覧者数 3,000 人 ■常設展・特別展の英文表記の実施 ■収蔵品を適切に管理します。	[実施内容と達成状況] □2 回 (4/1-7/1, 8/20-11/24) 観覧者数 8,374 人 □特別展「横浜狂言堂 150 回記念写真展」に変更しました。(1/30-3/14) 観覧者数 1,496 人 横浜狂言堂 150 回記念 特別普及公演「家×家 交流狂言」の開催にあわせて実施。横浜狂言堂の過去 150 回のアーカイブから厳選した舞台写真を、パネルで紹介しました。感染症対策として、展示スペースの鑑賞者の密集を避けるため、ロビーやレストランスペース等を含む全館で展示を行いました。鑑賞者からは「横浜狂言堂が歴史のある公演と知りました」「この 12 年間で鬼籍に入られた方々の写真を懐かしく拝見し目頭が熱くなりました」等、新規来場者から公演のファンまで、幅広く楽しめたという声が寄せられました。 ■常設展では、日本語・英語併記による解説を付けました。 ■収蔵品を適切に管理しました。

(7) その他文化事業に関する取組

〔目指す成果〕

東京オリンピック・パラリンピック 2020 を好機と捉え、日本の古典芸能の魅力を幅広い人々に紹介する取組みを行います。また過去 24 年間の公演記録（アーカイブ）を整え、公開します。

〔成果についての振り返り〕

オリンピック・パラリンピックは延期となりましたが、幅広い市民や横浜在住の外国人を対象とした文化プログラムや多言語対応の施設見学会や能公演を実施し、その魅力を伝えました。また国内外を問わずコロナ禍で能楽堂に足を運べない方々に能楽と横浜能楽堂の魅力を伝えるため、「横浜狂言堂」や「バリアフリー能」等での動画配信、3D 画像で能楽堂内を探検できる「バーチャル能楽堂」の公開、オンライン施設見学会動画の配信等、様々な取組を実施しました。アーカイブについては過去の公演記録の整理を進め、今年度は「横浜狂言堂」150 回分をホームページで公開しました。

〔取組内容〕

①2020 年度シンボル・プログラムに参加します。

〔達成指標〕

■他の専門文化施設と連携して東京オリンピック・パラリンピック 2020 開催期間中に、日本の文化を紹介する事業を施設外で行います。

施設内では、

■外国人向け小鼓体験と施設見学会

■障がいのある方向け施設見学会

■外国人等に配慮した普及公演を同期間中に開催します。

〔実施内容と達成状況〕

9/19 から 11/23 に開催された横浜文化プログラム 2020 に参加。10/3、11/1 に「横浜能楽堂 presents 和のきらめき」と題してランドマークプラザ内サカタのタネガーデンスクエアにて、日本舞踊、能楽、琉球舞踊のプログラムを上演しました。無料で見られることもあり、多くの買い物客が足を止めて、鑑賞したほか、公演内容は YouTube でライブ配信されました。

■7/31「みんなで楽しむ能楽堂」で英語通訳と手話通訳対応（手話通訳は利用希望なし）。仕舞鑑賞（2 回計 84 人）、舞台裏見学（4 回計 37 人）、小鼓体験（6 回計 21 人）。国際交流ラウンジや日本語学校等の外国人関係の 33 団体送付し、外国に所縁のある方 16 名が仕舞鑑賞に参加しました。

■8/2 実施普及公演「NOHGA KU for everyone～みんなで楽しむ能・狂言～」

②公演記録の一部の公開を始めます。	券売率 80%／入場者数 388 人 通年の取組として、 ■近隣ホテルと連携した宿泊者向けの公演案内（当日券の確保） ■外国人向けのプロモーション拡充 英語による各種印刷物の作成と配布 ■「横浜狂言堂」全 150 回公演についてアーカイブ化し、公開します。	券売率 100%、入場者数 207 人 解説付きの能狂言の公演を実施。当日は、スマホ・タブレット向けの解説字幕を日英 2 か国語で配信しました。当日は外国に所縁のある方が 15 名来場、また約 16%の方が初めて能・狂言を鑑賞するなど、能狂言の魅力をより多くの方に伝えることが出来た公演となりました。 ■コロナ禍のため見送りました。 ■英語版スケジュールを発行し、市内ホテルや国際交流ラウンジにて配布しました。 ■公演アーカイブを公開。「横浜狂言堂」150 回分を完成し、2 月に公開しました。1 月、2 月の横浜狂言堂 150 回記念特別普及公演「家×家交流狂言」では、舞台写真と、150 回分の公演一覧を掲載した記念パンフレットを配布しました。
--------------------------	---	---

4 収支計画及び指定管理料

(1) 利用料金の考え方と具体的な料金設定、支払方法や割引料金・減免等の運用方法の考え方

[目指す成果] 業務の基準に従い、適切に運用します。 [成果についての振り返り] 業務の基準に従い、適切に対応しました。		
[取組内容] ①適切な料金設定 ②利用状況に合わせた支払方法 ③条例及び施行規則に基づく減免等の運用	[達成指標] ■学校鑑賞会利用における半額減免の導入 ■児童、生徒、学生の見学会の全額減免	[実施内容と達成状況] ■4 月に 1 件申込がありましたが、中止となりました。 ■2 校 5 回申込のうち、1 校 2 回実施しました。

	■減免についてのマニュアルの作成 (料金設定・支払方法等は、2(1)のとおり)	■達成指標のとおり実施しました。
--	---	-------------------------

(2) 指定管理料のみに依存しない収入構造

[目指す成果] 限られた経営資源を適切に配分するとともに外部資金を積極的に導入することで経営を安定化し、施設で収支バランスをとれる状態とします。 [成果についての振り返り] 利用料金収入、入場料収入の大幅な減収がありましたが、事業経費や光熱水費の削減に取り組み、支出も抑制する努力を続けました。助成金も事業実施の原資として活用しました。		
[取組内容] ①自主事業収入・利用料金収入の安定的な確保 ②助成金、寄付金の確実な獲得 ③協賛金収入の獲得 ④貸館における友の会会報へのちらし封入サービス等の提供 ⑥貸館公演におけるチケット作成代行、販売代行サービス等の提供 ⑦撮影料金の運用 ⑧オリジナル商品の開発及び販売 ⑨事業収支の健全性の基準設定及びそれに基づく適切な計画	[達成指標] □利用料金収入 16,600 千円 □日本芸術文化振興会等の助成金獲得 15,000 千円 □協賛金・寄付金収入の獲得 50 千円 ■貸館の手引きにより、ちらし封入サービス、チケット作成、販売代行の有料サービスの提供の周知を図ります。 ■設定された撮影料金に基づき運営します。 ■オリジナルショップ商品開発を検討します。	[実施内容と達成状況] □利用料金収入 7,783 千円 □日本芸術文化振興会等の助成金獲得 12,019 千円 □協賛金・寄付金収入の獲得 60 千円 (2 団体より) ■ちらし封入サービス利用件数/貸館利用者 0 件、その他 17 件。チケット作成・販売代行有料サービス 1 回の利用がありました。 ■12 件の問合せ、下見等があり、5 件の撮影利用(横浜市紹介動画、日本舞踊講座動画、NHK 大河ドラマ、狂言 web 配信動画等)がありました。 ■「舞」シリーズの新作、フラットポーチを製作しました。

(3) 経費削減等効率的運営の努力

[目指す成果] 業務の基準に従い、効率的な運営と経費削減を目指します [成果についての振り返り] 業務の基準に従い、効率的な運営と経費削減を行いました。合わせて資源の有効活用、環境への配慮、職員のワークライフバランス確保に結びました。		
[取組内容] ①発注・事務処理、施設・設備管	[達成指標] ■ちらし作成枚数の精査し	[実施内容と達成状況] ■公演ごとの部数を精査し

理等の留意による経費削減等効率的運営の努力 ②適切な人材配置及び超過勤務の削減及び職員のワークライフバランスを図ること等による人件費削減の努力	廃棄数を減らし、印刷費を適切に執行します。 ■不急案件の発注をまとめて行うことにより、事務の効率化や経費の削減を行います。 ■業務の効率化に努め、超勤時間のコントロールを行います。	て作成しました。支出についても案件ごとに必要性を検討し抑制に努めました。 ■消耗品の発注を計画的に行うことで、事務の手間を省き、配送料や振込手数料の節約を行いました。 ■超過勤務は事前申請を徹底しました。有給休暇は全員が年５日間以上取得しました。
---	---	--

5 P D C Aサイクルの確実な運用

[取組内容] ・日報及び月間業務報告書の作成・管理 ・業務計画書及び業務報告書の作成・管理 ・業務評価（モニタリング、自己評価、第三者による評価の実施）	[達成指標] ■遺漏ない作成を行います。 ■遅滞なく業務評価を実施します。	[実施内容と達成状況] ■遺漏なく作成しました。 ■遅滞なく業務評価を実施しました。
---	--	---

6 留意事項

[取組内容] ・保険及び損害賠償の取扱い ・関係法令等の遵守 ・市及び関係機関等との連絡調整 ・近隣対策の実施 ・その他	[達成指標] ■関係法令等を遵守します。 ■業務の基準に従って適切に行います。	[実施内容と達成状況] ■関係法令等を遵守し運営しました。 ■業務の基準に従って適切に行いました。
---	--	--

令和２年度 「横浜能楽堂」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	191,035,000		191,035,000	191,035,000	0	横浜市より
文化施設運営事業	176,485,000		176,485,000	176,485,000	0	
横浜能楽堂和体験事業	2,000,000		2,000,000	2,000,000	0	
芸術文化支援事業	12,550,000		12,550,000	12,550,000	0	
利用料金収入	16,600,000		16,600,000	7,783,330	8,816,670	休館/利用制限による減
自主事業収入	36,432,000		36,432,000	22,148,049	14,283,951	公演中止/入場者数制限等による減
横浜市による運営支援（休館期間等）				3,187,000	△ 3,187,000	
横浜市による運営支援（利用再開後の期間）				0	0	
雑入	16,362,000		16,362,000	12,816,855	3,545,145	
自動販売機手数料	280,000		280,000	196,119	83,881	
その他（コピー代、炭代）	220,000		220,000	541,590	△ 321,590	撮影利用に伴う雑収入増
その他（助成金）	15,812,000		15,812,000	12,019,146	3,792,854	
その他（企業協賛金、寄付金）	50,000		50,000	60,000	△ 10,000	
収入合計	260,429,000		260,429,000	236,970,234	23,458,766	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	90,007,000	0	90,007,000	80,882,036	9,124,964	
給与・賃金	75,288,000		75,288,000	67,073,708	8,214,292	臨時職員15名の給与を含む
社会保険料	9,129,000		9,129,000	9,014,873	114,127	
通勤手当	2,812,000		2,812,000	2,084,427	727,573	
健康診断費	117,000		117,000	112,406	4,594	
退職給付引当金繰入額	2,661,000		2,661,000	2,596,622	64,378	
事務費	10,190,000	0	10,190,000	9,795,568	394,432	
旅費	500,000		500,000	111,003	388,997	
消耗品費	1,400,000		1,400,000	1,921,296	△ 521,296	
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	300,000		300,000	0	300,000	
通信費	2,330,000		2,330,000	1,407,015	922,985	
使用料及び賃借料	2,050,000	0	2,050,000	1,597,465	452,535	
横浜市への支払分	100,000		100,000	11,246	88,754	
その他	1,950,000		1,950,000	1,586,219	363,781	
備品購入費	180,000		180,000	1,763,784	△ 1,583,784	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	60,000		60,000	54,460	5,540	
職員等研修費	0		0	0	0	
振込手数料	550,000		550,000	630,232	△ 80,232	
リース料	1,230,000		1,230,000	983,160	246,840	
手数料	500,000		500,000	583,753	△ 83,753	
地域協力費	0		0	0	0	
広告宣伝費	900,000		900,000	673,480	226,520	
負担金（会費）	0		0	0	0	
雑支出	190,000		190,000	69,920	120,080	
事業費	68,539,000	0	68,539,000	53,466,813	15,072,187	
自主事業費	52,489,000		52,489,000	41,655,953	10,833,047	
横浜能楽堂和体験事業費	2,300,000		2,300,000	2,031,379	268,621	
芸術文化支援事業費（シンボルプログラム分）	13,750,000		13,750,000	9,779,481	3,970,519	
管理費	68,000,000	0	68,000,000	66,097,033	1,902,967	
光熱水費	14,000,000	0	14,000,000	10,473,943	3,526,057	
電気料金	8,745,000		8,745,000	6,464,016	2,280,984	
ガス料金	3,775,000		3,775,000	2,819,958	955,042	
水道料金	1,480,000		1,480,000	1,189,969	290,031	
清掃費	0		0	0	0	設備保全費を含む
修繕費	2,700,000		2,700,000	2,358,394	341,606	
機械警備費	0		0	0	0	設備保全費を含む
設備保全費	51,300,000	0	51,300,000	53,264,696	△ 1,964,696	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	その他保全費を含む
消防設備保守	0		0	0	0	その他保全費を含む
電気設備保守	0		0	0	0	その他保全費を含む
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	その他保全費を含む
駐車場設備保全費	270,000		270,000	264,000	6,000	機械式駐車場点検
その他保全費	51,030,000		51,030,000	53,000,696	△ 1,970,696	建物総合保守、清掃警備委託、舞台操作委託費を含む
共益費			0	0	0	
公租公課	7,306,000	0	7,306,000	8,553,377	△ 1,247,377	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	7,224,000		7,224,000	8,472,700	△ 1,248,700	
印紙税	66,000		66,000	59,650	6,350	
その他（電波利用料等）	16,000		16,000	21,027	△ 5,027	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	16,387,000	0	16,387,000	16,387,000	0	
本部分	16,387,000		16,387,000	16,387,000	0	
当該施設分			0		0	
支出合計	260,429,000	0	260,429,000	235,181,827	25,247,173	
差引	0	0	0	1,788,407	△ 1,788,407	